会社概要

社名	株式会社ロボデックス		
創立	2019年6月　設立		
所在地	神奈川県横浜市旭区上川井町2176 ガーデンヒート上川井ビルB1		
資本金	500万円	従業員数	3名
事業内容	ドローン開発販売・水素燃料電池販売		

主力製品

<u>ハイブリッドドローンの研究開発・販売</u>
産業用ドローンに不可欠な長時間飛行を可能にするガソリン発電による3時間飛行可能なドローンや、水素を利用した燃料電池を搭載したドローンを提供いたします

作成前の課題認識

産業用ドローンの開発と普及のための取り組んでいる活動が数多くあり、関係性がわかりにくくなっていた。その結果、会社として何を目指しているのかも関係者で共有できない状況になっていた。

作成の成果・今後の活用

【作成の成果】
産業用ドローンに対し、ロボデックスがどのような貢献をするのか、その活動の結果を使ってどのように収益を上げていくのかを考えることができた。

【今後の活用】
ロードマップが整理できたため、1つ1つの取組みを明確な役割分担のもとで着実に実施していく。

経営デザインシート　（公開版）株式会社ロボデックス

2021/03

自社の目的・特徴・事業概要

・ドローン技術と水素燃料電池を組合せ、産業用ドローンの社会実装に貢献。
・「協議会（ロボデックス+帝人）」連携で次世代高圧容器開発+高圧充填

経営方針

産業用ドローンを使ってより良い社会へ貢献する。

これまで

資源 → ビジネスモデル → 価値

内部資源
・海外製燃料電池販売権
・経産省大臣特認取得済
・国交省航空局飛行許可
・飛行実績

知財
ドローン制御で特許申請

外部調達資源（誰から）
・大手容器企業とパートナー

知財

資源をどのように用いて価値を生み出してきたか
産業用ドローンに組込実績
国内初の燃料電池デモ飛行実績　弊社から専用タンク（大臣特認取得予定）を販売
誰と組んで
intelligentEnergy社（英国）
帝人エンジニアリング
提供先へのアクセス法
PR→インバウンド
パートナー（IE、帝人）からの紹介

知財の果たしてきた役割
デイフェンス、PR

提供してきた価値

提供先（誰に）
ドローン企業、大手企業ドローン研究部署
何を
燃料電池ユニット+コンサル

燃料電池ドローンを利用した実証実験請負

提供先から得てきたもの
・水平展開へのPR

これまでの外部環境

＋要素	－要素
水素社会の実現	高圧ガス法（＝飛行NG)

市場状況
産業用ドローンの長時間飛行が必須（バッテリーでは不可能）
水素供給インフラ未構築

事業課題（弱み）
・収益モデルの確立
・量産体制への移行

これから

資源 ← ビジネスモデル ← 価値

内部資源
・専門職組織
・タンク、電池販売権
・実績
・オンリーワン
（ドローン+水素をメインにしたドローンメーカー）

知財

外部調達資源（誰から）
・資金調達
・大手企業と業務提携
・水素協議会発足

知財

資源をどのように用いて価値を生み出すか
福島復興支援発信のクリーンエネルギードローンを国内物流産業に向けて提供

ドローンの社会実装実現
ラストワンマイル2022

どんな相手と組んで
福島コースト構想（経産省等）　容器メーカー、ガスインフラ会社、燃料電池メーカー
ドローンメーカー、ユーザー

提供先へのアクセス法
PR+インバウンド
パートナーから紹介
新規営業

知財の果たす役割

提供する価値

提供先（どんな相手）
ドローン利用の物流企業
物流企業を支援しているドローン企業

何を
水素燃料電池ユニット
産業用水素ドローン
水素充填インフラサポート
専用高圧ガスタンク（認可済み）
次世代容器

提供先から得るもの
・製品の量産化
・水平展開
（国内物流産業）

「これから」の姿への移行のための戦略

これまで → これから

これからの外部環境

＋高圧ガス法改正（大臣特認）	－水素価値の不足「ミライ」車の悪い例

ドローン物流の実現による市場拡大
水素ドローンの重要性を認識

移行のための課題
・水素ドローンの用途実績（デモ飛行）
・高圧ガス法の改定
・水素を手軽に利用できるように

必要な資源
・会社組織（構築中）
適切なランニング資金
（売上、資金調達）
・事業計画

知財

解決策
・水素の価値を認識させる（デモ実証運用）具体的な
・手軽に使えるための技術開発/法改正推進
・手軽な充填ができるように（しくみ・技術・法改正）
・高圧ガス容器空中利用に対する社団法人設立で、安全確保、適切運用、主導権を得る
「水素ドローン産業化推進協議会」（2022年2月17日設立）
・広報活動　ベンチャーとして世界発信
・カーボンニュートラルへの対応
・特許による技術保護
・映像による具現化イメージの共有